

「第 2 回 北洋材利用に係る意見交換会」の論点

■現状と影響

- 1 ロシア国内での伐採量が減少しており、北洋材原木の調達は困難
また、製品加工は欧州・中国主体で日本向け製品輸出は、質・量共に大幅増加は期待できない
- 2 北洋材製材については、
 - ① 原木挽きをやめ、半製品(原板)挽きに特化
 - ② 製品輸入にシフト
 - ③ 原木がなくなるまで様子を見ながら原木挽きを継続
 - ④ 北洋材製材からの撤退(廃業)
 - ⑤ 国産材での原木挽きにシフト等の選択肢があり、原木を加工する事業継続のためには、代替材への転換に迫られる
- 3 合板生産においても、代替材への転換に迫られる
- 4 代替材としての国産材は為替リスクがなく期待が高いが、原木の供給に地域間で出材量等のバラツキがある
- 5 地域の資源背景や産業構造を無視した木材供給の急激な変化は、地域の木材産業・地域の雇用にも大きな影響を及ぼす恐れ
- 6 北洋材を利用した製材品や合板の大幅な供給減が発生すれば、需要先にも影響を及ぼす恐れ

■今後の対応方向

北洋材利用については、ロシア政府に対し、高率の輸出税措置の再考・撤回の検討を引き続き申し入れる一方、今後、原木輸入量の確保が期待できない場合のためには、次の対応が必要

論点 1 原木の集荷について

- 1 国産原木の安定的な確保には、広域集荷が必要ではないか
 - 川上と川下が連携した広域な地域間連携による安定供給体制整備が必要
 - 効率的な原木調達（原木生産）に対する支援が必要
- 2 急激な木材需要の変化に対応した安定取引のためのルール作りが必要ではないか
 - 関係者による、地域の資源及び利用状況に応じた安定供給のためのルールの整備が必要
 - 価格決定やクレーム処理等公正な取引のためのルールの整備が必要

論点 2 加工施設、加工技術について

- 1 樹種転換、品目転換に伴う施設整備が必要ではないか
 - 施設整備への支援が必要
- 2 施設整備に伴う資金繰りが課題
 - 施設整備や運転資金への金融支援が必要
- 3 加工技術のレベルアップや技術開発が必要ではないか
 - 品質確保、歩留まり向上への技術支援が必要
 - 新たな加工技術の開発に対する支援が必要

論点 3 販路について

- 1 樹種転換、品目転換した場合には、新たな販路が必要ではないか
 - 販売促進のための支援が必要
- 2 新製品の開発等が必要ではないか
 - 新製品開発のための支援が必要
 - 住宅建設への合板利用の拡大が必要